

ユニバーサルデザイン研究部会

# 当事者のことば

## 復職24年

### 森山政与志の思い



部会アドバイザー **森山 政与志**  
もりやま まさよし  
生活環境・企画設計工房

#### 主題説明

**児玉：**働き盛りの一級建築士が、49歳で、施設の作り手から左半身不随の施設ユーザーとなっても自分らしく生きたいと強く願い、復職に必要な社会システムや共同体との出会いと経験を通してUDの本質を考える。

#### 主題解説

**森山：**私は、障がい者となった翌朝から「やったるぜ」と復職ボタンを起動した。それができたのは、そうなるまでに得た小さな達成感が無念さを和らげ前を向かせたこと、目も耳も口も右手足も「心」も崩れていなかったことにある。「心」とは「与条件や境遇を受け入れ、問題を先送りせず生活を楽しんでベストを尽す」という心根である。

私は、障がい者となった後に普通自動車免許を取得した。当初、周囲からの反対を穏やかに訴え、医療機関の指定教習所での教習を条件に許可を得た。退院日にそこに向かうが、雰囲気合わず入学を断り、帰宅途中の民間教習所に飛び込む。所長からは、エレベーターもなく、障がい者への教習経験も無いと困惑されたが、微笑みながら階段乗降等をするなどを見ていただき入学の了解を得た。洋式便器が無く後悔しましたが後にも引けず、翌日から、自宅から700m程先で待つ送迎バスで通い、4カ月で免許を取得した。私は、自由に歩くという身体的なスキルを失ったが、自動車を運転できるという新たなスキルで補った。「教習項目の一部緩和はあっても、一歩外に出れば運転規則遵守は健常者と同じ」と申し渡された言葉を心に刻み、復帰から定年まで働く。

私は、障がい者となって、障がい者の思いを少し知り、それを語り伝える場を持つことに恵まれた。定年後「生活環境・企画設計工房」を設立し、障がい者になった後に知り合った女性と67歳で入籍、初婚の新郎となった。

昨年、車椅子生活となったがWeb開催であったUD部会主催の「UDナイトトーク」で情報収集や気分転換を図れた。今回のJFMAフォーラム2024もその延長上にある。通勤困難を乗り越えた対面による仕事は、心身の健康に役立った。復職した時代に存在しなかったリモ

部会員 **塩川 完也**

しおかわ かんや  
フリーランス

ゲスト **黒須 美枝**

くろす みえ  
アートセラピストアカデミー

部会員 **千葉 亨二**

ちば きょうじ  
板橋区

部会長 **児玉 達朗**

こだまた たらう  
大熊町

トワークは課題もあるが、新たなスキルとして付き合っていきたい。

輝ける未来は過去をも変える。あの過去が輝く今になったと思える仲間を一人でも増やしたい。私のUDは最後の一步は自らが掴む。そんな環境創りに役立ちたい。

#### 意見・感想

**塩川：**障がい者になった森山氏の強さには、「身の丈の達成感」という心構えと、それを支える仲間や環境が大きく寄与している。また、「選択の自由」があることが、UDを考える上で大変重要であり、それは人間の「尊厳」にもつながることだと再認識できた。テクノロジーの進展がUDとして大切な「選択の自由度」をさらに高めていくことに期待している。

**千葉：**UDの環境では、テクノロジーの進展や対象者の広がりなど変化している。現代のテクノロジーを過去の自身に贈るとしたら何を望むのか、という問いかけに森山氏は「YouTubeによる発信力であり、将来の備えとして、それらを扱うスキルが大事である」と答えた。行政の取り組みでも、テクノロジーを扱うための教育が必要だと考えている。

**黒須：**今後も障がい者対象の新たな支援や福祉機器が生まれてくる可能性がある。それを必要とする動機は、日々において本人自体が生活のQOL (Quality Of Life) を求める意欲が大切であり、その継続には家族が果たす役割が共に大きい。

#### まとめ

**児玉：**UDの本質は、人が幸せに生きていこうとする心を支えることであり、その手段は人それぞれ多様で、決して一つではない。森山氏が歩んできた生き様から私たちはUDの本質の一端を学ぶことができた。◀